

「くまもと戦争と平和のミュージアム設立」の基本構想（案）

2021（令和3）年4月5日版
くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

1 設立の趣旨 ※趣意書3／31案の該当部を掲載

令和2（2020）年8月、アジア・太平洋戦争が終って75年の平和な月日が流れました。今や日本の社会全体が過去の戦争のことを忘れ去ろうとしています。戦争体験者は国民の2割をきり、ご遺族の方々も高齢化しており、平和な社会と繁栄の時代への出発点となったさきの大戦の記憶が薄れつつあります。

思えばわが国は、この戦争で中国大陸や遠く南方の島々まで戦線を拡げて、そして郷土熊本第六師団とともに、私たちの父や兄弟たちの命も失われました。ひるがえって県下各地は、度重なる空襲で甚大な被害と多くの命が犠牲となりました。言葉に尽くせない悲しみの記憶があります。また同時に、多くの国々に多大な迷惑をかけました。

この戦争の実相と戦争が残した計り知れない教訓を、次の世代に伝えることは、今に生きる私たちの責務であると思います。それは、戦争で亡くなった方々への鎮魂であると共に、私たちが再び戦争の惨禍を引き起こさないためにも、次の時代に向け平和の礎として戦争と平和のミュージアムを設立することが極めて重要なことだと考えます。

いま全国・県内では、戦争に関する資料の収集・保存・展示と平和構築のための施設が新たに開設され、市民運動としての新たな平和活動が進んでいます。北九州市では新たに市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設として「（仮称）平和資料館」の建設が進められています。一方県内では、市民グループによる自主運営の「菊池飛行場ミュージアム」や「荒尾二造平和資料館」が相次いで設立され、錦町では「人吉海軍航空基地資料館」が開館し、戦争や地域の戦争遺産に関する資料収集や戦争体験の継承もなされています。

明治十年の西南戦争のさなかに、田原坂の激戦の中から生まれた博愛社は「日本赤十字社」の前身となりました。熊本は人間愛と人道主義のもと、いのちの尊厳と世界の平和を希求する日本赤十字社の発祥の地です。

ここ県都に、この博愛の精神を基にして、戦争体験を次の世代に伝え、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて学ぶ常設の施設設立が強く望まれます。そこで私たちは、「くまもと戦争と平和ミュージアム（仮称）」設立を、新たな市民運動として県民、熊本市民の方々に呼びかけます。

2 目指す三つの姿

熊本に設立する戦争と平和のミュージアムが目指す姿は次の3項目です。

- （1）熊本空襲を調査・記録し、保存し、未来に継承する場とする！
- （2）熊本の戦争の歴史とその遺産に学び、戦争犠牲者に対する追悼・祈念の場とする！
- （3）次の世代が、命の尊さ、平和の大切さを学び、ヒトに伝える場とする！

3 六つの特徴と性格

上記の目指す3項目の姿を実現させるために、熊本市内に設立される施設は次のような特徴と性格を持つものが望ましいと考えます。

（1）次世代の子ども達へつたえる！

「次の世代が、命の尊さ、平和の大切さを学び、ヒトに伝える場とする」ために、平和を希求する県民・市民の学習の場、集いの場、シンボリック施設になるようなものが望まれます。とくに小・中学生や高校生が利用しやすい交通の至便の場所に建設され、建物や展示構成にも小中学生から戦争体験者まで幅広い年齢層の要求に応えるような工夫が必要です。豊富な資料や物によって戦争の事実を生々しく語らせるとともに、デジタル技術（プロジェクトマッピング等）を活用した展示方法によって、分かりやすく興味あるものにすることが大切です。学校教育、家庭教育、県・市町村の職員の研修、生涯教育の場として多くの人に利用され、県民・市民が「平和を考えるのによい場所と思える施設を日指すべきです。

また、大人と子ども、戦争体験世代の高齢者や子どもなど異なった世代が戦争と平和を語れる場になるよう工夫が必要だと思います。また、多目的室を併設して、講演、演劇、音楽などを通じて小さくても質の高い平和活動を考えます。そして県民・市民が何らかの形で運営に参加・協力できるものによって、施設はいつそう身近な存在になることが期待されます。

（2）歴史の客観性と総合性を！

「熊本空襲を調査・記録し、保存し、未来に継承する場」とし、「熊本の戦争の歴史とその遺

産に学ぶ」ためにも、戦争に関する資料は、収集や展示で常に客観性と総合性が求められます。平和資料館では戦争の被害の側面、加害の側面のいずれを重視するのかという議論がなされることがありますが、戦争は決して一面のみをことさら強調すべきではありません。くまもと戦争と平和ミュージアムにおいては、「戦争の事実を正確に伝えること」を最大の目的とし、客観的かつ総合的なものを目指します。そのためには、県内外の研究者に協力を求め、その指導助言のもとに計画を進めていきます。

また、戦争を庶民の側からとらえ、市井の国民にとって「戦争とは何であったのか」ということを考えます。戦前・戦中における軍国主義の国家体制のもとで、国民・県民がどのような生活を強いられたのかを戦時資料を通して取り上げる構成を考えます。

(3) 熊本は平和活動発祥の地！

熊本に建設される施設として、地域の特性を十分表現したものであることが望まれます。熊本県は、西南戦争の激戦地であり、政府の本陣営が設置された場所であることや九州の中心地であることから、早くから軍の主要設備が設置され軍都として繁栄した歴史があります。一方で、西南戦争においては、敵味方区別なく博愛の精神で自発的に救護を行った日本赤十字の発祥の地という特殊性もあります。私たちの熊本が二度と戦争の地にならないようにするためにも、また、平和活動発祥の思いを継承するためにも、このような熊本の特殊性が十分表現されることが望まれます。

(4) 「SDGs」平和と公正をすべての人に！

これから設立される施設は、SDGsに掲げる、持続的に平和と公正をすべてのひとに与えるべくものです。そして「あらゆる場所で、あらゆる形の暴力と、暴力による死を大きく減らす」に示されているように、戦争という大きな暴力を無くし、世界の平和に向けて、持続可能な社会の実現のために、県都熊本市に「戦争と平和のミュージアム」設立を願うものです。

施設の究極のテーマは平和な国際社会を築くことであり、現在国際社会が抱えている、飢餓と貧困、差別、人権抑圧、環境破壊など広い意味での平和の課題に対しても目を向けたものであることが望まれます。他国の若者と日本の若者が共に考え、コミュニケーションを培う場として利用されることが望ましいと思われまます。

(5) 平和のための調査と研究、情報の公開、デジタルミュージアムを！

平和のための研究機関として、将来、成長発展していく施設であることが望ましいと思えます。単なる戦争博物館ではなく、「戦争と平和」をテーマに過去・現代・未来を結び付ける内容をもった施設にすることが必要です。そのためには県内外の研究者による指導助言により、広い情報収集能力、情報発信能力をもった平和センターとして発展していくものになれば、特徴ある施設になると思われまます。また、HP内に所蔵資料を積極的にデジタルミュージアムとして公開していきます。将来持続的且つ成長していく可能性を保障する施設にすることが望まれます。

(6) 犠牲者追悼と平和を祈念して！

「戦争犠牲者に対する追悼・祈念の場とする」ことが求められます。戦争の事実を正しく後世に伝えることは戦争犠牲者に対する最大の鎮魂です。思えばわが国は中国大陸遠く南方の島々まで戦線を拡げて戦い、その結果あまたの将兵の尊い命が失われ、空襲でも多くの民間人の命も奪われました。また、アジア・太平洋各地での犠牲者ははかりしれません。戦争犠牲者への追悼と平和祈念のための場（慰霊碑・モニュメント）を設けること願っています。人々が個々の平和について想いをめぐらすことが出来る場として利用していきます。

4 機能と建物計画

施設の機能を十分果たすために必要と思われる建物計画は次のとおりです。ただし、最初からすべてを完備することができない場合は、将来完備できるよう当初から全体計画の中に組み込まれていることが望ましいと思われまます。

(1) 建物・各室等

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| ①常設津展示室 | ②企画展示室 | ③収蔵庫・作業スペース |
| ④多目的室 | ⑤図書・情報検索室 | ⑥管理事務所 |
| ⑦駐車場 | ⑧慰霊碑・モニュメント | |

(2) 機能

- | | | | |
|-------------|---------------|----------|-------|
| ①展示機能 | ②収集・保管・保存処理機能 | ③研究機能 | |
| ④学習・啓発・公開機能 | ⑤交流機能 | ⑥事務・運営機能 | ⑦追悼機能 |

5 展示構成

施設の設立趣旨にもとづいて展示の構成を考えると、「Ⅰ 熊本の戦争前史」、「Ⅱ 熊本空襲」、「Ⅲ 熊本の戦争の歴史をたどる」、「Ⅳ 昭和の戦争時代」、「Ⅴ 戦後の熊本、平和社会の実現、未来に向けて」の五項目に分けられます。それらの項目での展示内容は以下ようになります。

(1) プロローグ展示「熊本の戦争前史 ～博愛社の発祥から戦前の市民の暮らし～」

- 西南戦争の概要
- 博愛社（日本赤十字の前身）の発祥
- 軍都熊本の成立
- 戦前の世界情勢
- 日本の国家体制と戦争への過程
- 熊本の市民の暮らし、街の様子

(2) ストリート展示① 「熊本空襲 ～二度の大空襲をへて～」

※熊本空襲を語り継ぐ会資料を参照

- 空襲
- 航空技術の発展と軍需産業
- 7月1日第1回熊本大空襲
- 8月10日第2回熊本大空襲
- 熊本県内空襲略年表
- 県下の空襲地概要
- 県下の空襲慰霊碑
- 県下の空襲資料・焼夷弾ほか

(3) ストリート展示②

「熊本の戦争の歴史をたどる ～熊本に残された戦争の傷跡 “戦争遺跡七大特徴”」

※くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク資料を参照

①前史

- アジア太平洋地域での戦争の推移(戦史)
- 日本の加害行為の実態
- 占領地支配
- 抗日運動
- 日本における戦争被害の実態
- 広島・長崎への原爆投下
- 沖縄戦
- 戦時の国家体制(経済・産業体制、法体制、軍事体制、地域体制、情報報道状況、人権状況)
- 軍部隊・軍施設
- 朝鮮人連行
- 学徒動員
- 学童疎開
- 軍国教育
- 反戦運動
- 戦時の国民生活
- 軍隊生活と戦場での兵士の犠牲
- 反戦運動
- 戦争終結と戦後処理

②軍都熊本市の軍事施設 ～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

- 熊本城地区
- 大江渡鹿地区
- 清水地区

③九州で三番目に多い陸海軍飛行場 ～本土決戦に向け、地下にもぐった飛行場施設～

- 県内戦争遺産の概要、飛行場・航空機産業
- 宮地飛行場
- 菊池飛行場
- 熊本飛行場
- 黒石原飛行場
- 玉名飛行場
- 隈庄飛行場
- 八代飛行場
- 人吉飛行場
- 天草飛行場
- 秘匿飛行場5箇所(山鹿・植木・大津・北熊本・陸軍人吉)

④東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所 ～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産～

⑤三菱重工業熊本航空機製作所と学校・地下工場～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

⑥本土決戦の天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と人吉地区地下工場・地下壕群

- 天草地区の概要
- 海軍砲台3箇所
- 海軍震洋基地
- 陸軍マルレ艇基地
- 人吉地区地下工場・地下壕群
- 第二十二海軍航空廠人吉分工場球磨郡錦町地下壕
- 佐世保鎮守府軍需部施設球磨郡錦町地下壕

⑦県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」

⑧朝鮮人や中国人、連合軍俘虜労働の「加害の歴史」

- 朝鮮人・中国人の「強制連行」
- 連合軍俘虜労働
- 福岡俘虜収容所第一分所(熊本捕虜収容所)
- 福岡俘虜収容所第六派遣所(田の浦捕虜収容所)

(4) 特別展示

「昭和の戦争時代 ～満州事変からアジア・太平洋戦争までを戦時資料でたどる～」

※上村真理子氏所蔵資料を中心として

①軍国少年少女の育成

- 教科書・指導書
- 学校教材(掛図・高射砲模型教材など)・校内掲示用ポスター
- 国民学校アルバム
- 絵本
- 子供用雑誌
- 夏休みの友
- 紙芝居(「動物大会」「米英相手に戦争を勝抜こう」)
- 戦争ごっこ玩具(竹製機関銃・軍刀・背囊・紙製兜・勲章)
- 玩具(空襲ゲーム・隣組ゲーム・スパイゲーム・カルタ・双六など)
- 小中学生の慰問文・慰問画
- 受験雑誌(少年航空兵・戦車兵)
- 小中学生のポスター・習字
- 戦時色濃い子供茶碗
- 少国民手帳

②徴兵制度 兵隊と戦争

- 徴兵心得
- 日の丸寄書き
- 軍人手帳
- 軍人勅諭
- 千人針
- 武運長久お守り・防護板
- 認識票
- 祝電報
- 祝幟旗
- 皇軍必携実用支那語
- 軍票
- 賞状
- 勲章
- 軍事郵便
- 皇軍慰問箱
- 軍隊生活日記
- 陸軍幹部候補生反省録
- 慰問袋・奉公袋
- 飛行服・防寒(服・手袋・飯盒入れ)
- 従軍写真帖
- 入営・除隊・凱旋記念品の盃や盆類
- 傷痍軍人関連品
- 遺書
- 戦死報告・死亡通知書
- 靖国参拝関連品

③銃後の女性の役割

- 愛国婦人会・大日本国防婦人会・大日本婦人会女性団体の布製旗
- 婦人雑誌(主婦の友・婦人倶楽部等)戦争協力
- 愛国婦人会の紫たすき・大日本国防婦人会の白たすき
- 大日本国防婦人会記念写真帳
- 出征兵士への「感謝」布製「立てよ進めよますらおよ---あと憂いなく進まれよ(大日本国防婦人会関西支部)」

④メディアの役割

- 子供新聞(少国民新聞・大毎小学生新聞)
- 朝日新聞・毎日新聞・読売報知新聞・新愛知・写真特報(同盟通信社)など

⑤政府・軍の世論操作（防空・防諜対策・転業の勧め）

○国策宣伝紙の写真週報・週報 大政翼賛会・隣組

⑥戦争資金調達（国民に貯蓄・国債購入奨励）

○貯金・国債・年金・徴兵保険の広告パンフレットや広告ポスター・看板 ○支那事変国債
売出しポスター ○大東亜戦争報国貯金通帳 ○可愛い坊やに徴兵保険

○戦争保険をつけましょう

⑦昭和戦争時代の地図・掛図

○大東亜戦果学習絵図 ○満蒙大地図 ○大東亜共栄圏地図 ○ソロモン群島・珊瑚海精密
図 ○南方共栄圏要図 ○太平洋全島精図

⑧日本植民地時代の朝鮮・台湾と傀儡国家の満州国

○満州国国旗 ○南満州鉄道株式会社木製看板 ○満蒙開拓青少年義勇軍志願者願書

○台湾総督府銘入り看板 ○朝鮮総督府銘入り看板 ○朝鮮総督府検査済米袋 ○日本統
治時代の紙幣・株券 ○朝鮮統治下時代の日本語教育書（朝鮮人指導者の日本人と日本語
を習う朝鮮人対象） ○朝鮮同胞男子戸籍及び寄留一斉調査（司法省）の知らせ

○昭和19年度から朝鮮徴兵制度施行

⑨戦争時代の人々の暮らし

○隣組回覧板 ○盆・茶碗・湯呑 ○代用陶器製品（釜・湯たんぽ・電気製品ソケット・洋
服かけ・キセル） ○煙草の定価表 ○衣類・着物・ハギレ ○衣料切符

○団扇・扇子 ○防空頭巾・モンペ ○防火用砂袋 ○防毒マスク ○国防カバー

○カレンダー ○手回し式空襲警報器 ○時局防空必携本 ○灯火管制心得ポスター

○簡単にできる防空頭巾 ○スパイに気をつけようの警察署発行チラシ

○愛国貯金箱

⑩ブーゲンブル島、フィリピン、中国大陸での戦い

※ブーゲンブル島会・創価学会青年部反戦出版委員会等資料を参照

○ブーゲンブル・ソロモン諸島遺品等

○フィリピン遺品等

○中国大陸遺品等

○満州・中国引揚資料

○『揚子江が哭いている 熊本第六師団大陸出兵の記録』、パネル資料

（5） エピローグ展示 「戦後の熊本、平和社会の実現、未来に向けて」

第二次大戦後の戦争／冷戦と核軍拡競争／軍縮の努力／冷戦終結後の戦争／国際社会と日本、
国連の役割／貧困、飢餓、差別、人権抑圧、環境破壊の克服への国際協力 / 平和運動と非暴力
思想／平和のための国際連帯／熊本県における平和への課題（平和教育・戦争を語りつぐ実践な
ど）

6 全体規模

以上のような施設を建設するためには、広い敷地と建物が必要になり、建設費も多額になると
思われます。また子どもから老人世代まで利用しやすいように、公共交通機関か、徒歩で行ける
ところで、自主建設地としてはジェーンズ邸・県立図書館・市立図書館周辺部が、複合施設内設
置としては街中の民間遊休施設や熊本市公共施設への併設が考えられます。

参考までに、これまでに建設された代表的な施設の全体規模を下段にまとめました。
戦争と平和をテーマに熊本では初めて建設される施設であり、ぜひ、他の地域に恥じない高いレ
ベルのものが建設されるよう望まれます。

附 [先進地事例]

（1）自主建設例

「ピースあいち」 愛知県名古屋市名東区よもぎ台（私有地）

建物面積：3483㎡・RC造・地上3階 展示室面積：○○㎡

敷地面積：2513㎡ 建設費 20億円 駐車場：3台

「(仮称)平和資料館 ※建設中」 福岡県北九州市小倉北区城内4番（国有地）

建物延面積：900㎡・RC造・地上1階 展示室面積：800㎡

敷地面積：2200㎡ 建設費 8億円（制作費を含む）

駐車場：勝山公園駐車場利用

（2）複合施設内設置例

「岡山空襲展示室」 岡山県岡山市北区元町15-1 岡山シティミュージアム5階

入場は無料 展示室面積：○○㎡ ビル全体敷地面積：○○㎡

建設費 ○○円

「大村近現代展示室」 長崎県大村市本町458-2 プラットおおむら4階

入場は無料 展示室面積：○○㎡ ビル全体敷地面積：○○㎡ 建設費 ○○円

